市「R&B構想」始動

推進方策づくりに着手

帯広市は今年度、帯広版リサーチ・ビジネスパーク構想（＝R&B。産官学連携による新産業創出事業）で、推進方策づくりに着手する。帯広畜産大など試験機関の研究成果と企業をつなげ、随時、事業化の取り組みが行われるシステムの構築を目指す。市は参考事例として道内外の先進地を視察する。

（能勢雄太郎）

道内外の先進地視察へ

R&Bは、道内では北大を中心に構想が進んでいる。道は札幌だけでなく、道内各地で地元の大学や研究機関を核にした地方版R&Bを推進している。

帯広では砂川敏文市長が1期目から十勝型産業クラスター構想を提唱。4月に工業系研究拠点「十勝産業振興センター」を開設したほか、昨年度から文科省の「都市エリア産学官連携促進事業」の指定を受けて農産物の機能性研究が進んでおり、次のステップとして事業化が指摘されていた。

帯広版R&Bは産業クラスターや都市エリアの取り組みを包括する。クラスター、都市エリアとも現時点では研究成果（シーズ＝種）の段階で、これを地元や道内外の企業に売り込み、事業化にこぎつける手法・組織として確立させる。

市としては都市エリア事業が区切りを迎える2007年度をめどに、一定の推進方策を構築する考え。今年度は先進地を視察する予定で、札幌市、函館市（水産物を原料にした機能性商品開発）のほか、近畿地方（医薬品テーマ）、福岡県久留米市（バイオ関連）などが候補地に挙がっている。

企画部では「研究機関と企業が日常的にジョイントできるような『橋渡し』の機能を考えたい。庁内的には商工観光部など関連部署と連携して議論を詰める」と話している。

＜北大R&B＞同大キャンパス内に研究施設、道立試験研究機関などを集積。民間企業、地域と包括的に連携し、大学の知的資源を生かした新技術開発、ベンチャービジネスの創出を目指す構想。類似的な取り組みが国内各地で行われている。